

『和歌山県観光振興実施行動計画』 ＝観光振興アクションプログラム2020＝

令和2年5月26日
記者発表

現状・方向性

◎観光産業の維持及び将来の発展に向け、情勢を踏まえた観光施策のスピーディーかつ柔軟な展開

◆新型コロナウイルス感染症の沈静化の見通しが確認できた時期に、国内外で大々的な復興キャンペーンを実施。日々移り変わる社会情勢にスピーディーかつ柔軟に対応し、国の経済対策と連携した各種施策を展開することで、裾野の広い産業である「観光産業」の維持・発展を目指します。

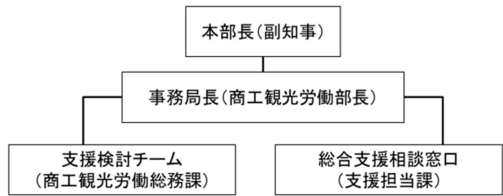


新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた取組内容（別冊）

◎当面の対応：厳しい状況下にある事業者の支援及び「安全・安心」の確保に向けた取組【現時点】

新型コロナウイルス感染症への対応のため、副知事を本部長とする支援本部を設置し、本部内の支援策検討チームにおいて、観光事業者をはじめとする県内企業からの意見を踏まえた県独自の支援策を策定・発表するとともに、引き続き新型コロナウイルス感染症の県内経済への影響を見極め、必要となれば躊躇なく新たな支援策を打ち出していく体制を整備

和歌山県新型コロナウイルス感染症にかかる支援本部



加えて総合支援相談窓口を開設し、各種支援制度を最大限活用いただく体制を整備

国、県等の施策を総動員し、観光事業者の雇用の維持と事業の継続を支えるとともに、「安全・安心」の確保のため業種毎ガイドライン作成を支援するなど「観光産業」の維持に向けた、事業者に寄り添ったサポートを実施

- ・各種支援策の相談や案内を行う観光事業者総合相談窓口の設置
- ・3つの原則（「全業種、全ての人を対象」「困っている人を助ける」「事業継続に資する」）をもとに構築した県独自の支援策や国の支援策、新型コロナウイルス感染症関連情報を案内する特設HPの開設
- ・観光事業者による感染拡大を予防するガイドラインや新しい生活様式の普及など、「安全・安心」を確保した観光地づくりを推進

※アクションプログラム本編に掲載している観光素材を活用し、効果的な観光施策を展開

◎「蘇りの地、わかやま」キャンペーン 第1弾【イベントや外出への自粛が緩和された段階】

新型コロナウイルス感染症による沈滞ムードから抜け出し、本県の豊かな自然で大いにリフレッシュしてもらうため、「蘇りの地、わかやま」の魅力を発信するとともに、まずは県民による県内移設の利用促進や県内周遊を促進

- ・SNS等を活用した情報発信や京阪神等をターゲットにメディアや旅行会社を対象とした総合プロモーションを実施
- ・「蘇りの地、わかやま」県内周遊促進キャンペーンの実施 など

◎「蘇りの地、わかやま」キャンペーン 第2弾【流行沈静化の見通しが確認できた段階】

ありとあらゆる手段を活用するとともに、市町村や関係団体と一丸となって大々的なプロモーションを展開し、本県への誘客を加速

- ・全国の旅行会社やメディアへ知事メッセージを送付し、「蘇りの地、わかやま」をPR
- ・メディア系旅行会社とのタイアップによる情報発信及び交通機関等とのタイアップキャンペーンの実施
- ・「世界遺産 高野・熊野夢舞台」や首都圏対策として「和みわかやま東京レセプション2020」の開催 など

◎「Wakayama Refresh」Campaign 海外対策【流行沈静化の見通しが確認できた段階】

沈静化の見通しが確認された国・地域から順次、市場ごとの嗜好に応じた「Wakayama Refresh」Campaignを展開し、本県への誘客を促進

- ・海外大手メディアやSNSを活用したグローバルメディアキャンペーンを大々的に展開
- ・海外旅行博覧会や商談会への出展、旅行会社やメディアへのセールスコールを集中的に実施 など

◎国の経済対策を受けた対応

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した観光産業の維持・発展に資する事業の実施や官民一体型の消費喚起キャンペーン「Go To キャンペーン(仮称)」と連動した取り組みを展開するなど、本県での消費を喚起

令和2年度の実施内容（本編）

1 和歌山を売り出す

(1)「水の国、わかやま。」で和歌山を売り出す（本冊5頁）

- ◆旅行商品造成等を促進するため、引き続き、具体的な周遊モデルコースの設定や周遊案内看板の整備を行うとともに、水にまつわる体験型観光事業者を支援
- ◆水の国エリアを周遊するモバイルスタンプラリーを展開 =New=
- ◆「水」を切り口に本県の自然の素晴らしさを伝えるため、テレビ番組の制作など、メディア展開するとともに、PR動画やパンフレット、WEB、SNSにより情報発信

(2)「サイクリング王国わかやま」で和歌山を売り出す（本冊10頁）

- ◆県内の周遊を一層促進するため、サイクリスト向けのモバイルスタンプラリーを拡充
- ◆有名アニメとのタイアップによる特別企画の実施により効果的な情報発信
- ◆有名サイクルショップとのタイアップによる情報発信やサイクリングツアーの開催 =New=
- ◆自転車の屋内管理や修理道具の貸し出し等、サイクリストに優しい宿泊施設の拡大を推進

(3)「わかやま歴史物語」(歴史・浪漫)で和歌山を売り出す（本冊20頁）

I 「わかやま歴史物語」

- ◆わかやま歴史物語リレー講座(仮称)を東京、大阪で開催 =New=
- ◆和歌山ゆかりの『古事記』『日本書紀』関連スポットを巡る旅「わかやま記紀の旅」を提案するとともにスタンプラリーを実施 =New=
- ◆「100の旅モデル」周遊スタンプラリーの内容を更新し継続実施するとともに、モバイル版も展開

II 周年事業

① 紀三井寺開創1250年 =New=

秘仏御本尊の御開帳や和歌の浦急峻3社寺巡り等の情報発信により誘客を促進

② 西国三十三所草創1300年

限定御朱印「特別印」の授与、御開帳などの特別拝観や各地の銘菓をセットにしたスイーツ巡礼などの記念事業のほか、周遊動機付けの特別記念品として、県内三寺の日本てぬぐいを作成し、周遊達成者への付与するなどにより誘客を促進

III 周遊促進と情報発信

- ◆「歴史の道百選」に選出された「古座街道」をはじめ、植芝盛平の顕彰施設オープンなど、時期を捉えた情報発信などにより誘客を促進

(4)「世界遺産」で和歌山を売り出す（本冊33頁）

I 新たな魅力情報発信と周遊拡大

- ◆世界遺産『高野山・熊野』の旬の情報を伝えるため、引き続き、世界遺産公式 Facebook による情報発信
- ◆国内外から熊野古道を訪れる方々を対象に参詣道の四季や時刻で異なる魅力あるスポットを紹介するWEB「地域の人々がすすめる熊野古道の新たな魅力100選」へ誘導し、広く情報発信
- ◆「高野山・熊野を愛する100人の会」会員による企画展の開催や各種活動による情報発信 =New=

II 保全と活用

- ◆参詣道の「保全と活用」を図るため、ワーケーションや企業CSRを通じた企業誘致や環境保全トレッキング等により、「道普請」の実施を推進

(5)「日本遺産」で和歌山を売り出す（本冊55頁）

I 日本遺産「鯨とともに生きる」

- ◆SNSを活用した情報発信により誘客を促進
- ◆訪れた観光客に提供する観光商品の開発を支援することにより、旅行商品の造成を促進

II 日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」

- ◆和歌の浦の楽しみ方を雑誌等で紹介
- ◆地域の人々がおすすめる和歌の浦の景色等を募集し、写真展やWEBを通じて情報発信

2 和歌山へ招く

(1) 「メディアを活用」して和歌山へ招く (本冊88頁)

- ◆テレビ、ラジオ、雑誌、新聞、WEB、SNSなどを複合的に組み合わせ、「世界遺産」「女子旅」などのブランド力やマーケットの注目度の高いテーマや「まだまだ知られていない和歌山の魅力」に関する情報の効果的な発信と提案活動を実施
 - ① 企画提案活動・・・ターゲット層にマッチした観光素材を活用した企画提案活動の実施
 - ② 観光情報誌「紀州浪漫」・・・全国の主要書店160店舗等で展開(年間30万部)
 - ③ フィルムコミッション・・・業界関係者に強く働きかけ、ロケ誘致により、映像を通じた和歌山の魅力発信と認知度向上を促進

(2) 「ターゲットごとのプロモーション」で和歌山へ招く (本冊99頁)

- ◆若い女性層(情報発信力と旅の決定権)をターゲットの中心とした誘客戦略(情報発信)
- ◆ワーケーションの推進を通じた誘客(東京2020オリ・パラ開催を見据えた誘客施策を実施) =New=
- ◆CSRによる世界遺産保全活動の推進(誘致活動、保全活動体験ツアー等)
- ◆信用金庫等の年金旅行誘致(営業・誘致活動、地域と一体となったおもてなしの充実等)
- ◆コンベンション誘致推進(開催支援、誘致活動)
- ◆修学・教育旅行の誘致活動(セールス活動、スクールキャラバン等、和歌山だからできる9つのプログラムを具体的に提案)
- ◆南紀白浜空港を利用した誘客(エージェント等訪問による旅行商品造成働きかけ等を実施)
- ◆和みわかやまキャンペーン(県内周遊を促進するための食のモバイルスタンプラリー等を実施) =New=
- ◆大型記念行事等を見据えたキャンペーン(スタンプラリー等を実施) =New=

(3) 「近畿、東海、西日本等」から和歌山へ招く (本冊119頁)

- I 阪急阪神グループタイアップキャンペーン
 - ◆大手私鉄グループの豊富なメディア媒体を活用し、京阪神での効果的な情報発信により誘客を促進
 - ◆交通媒体の活用、沿線フリーペーパー等への情報掲載、WEB・SNS等での展開
- II 特急「くろしお」号に乗って和歌山へ行こう！キャンペーン
 - ◆JR西日本和歌山支社とタイアップし、特急「くろしお」号利用促進のため、PRキャンペーンを実施

(4) 「首都圏」から和歌山へ招く (本冊135頁)

- ◆国内最大のマーケットで国内外の情報受発信の拠点である首都圏で、プロモーションを展開し、本県の認知度向上と誘客を促進
 - “和みわかやま”東京レセプション2020
 - 【時期等】10月14日(予定) ホテルニューオータニ東京
 - 【内容】観光PRレセプション、メディアに対する観光素材説明会等

3 和歌山でもてなす

(1) 夜の楽しみ方の提案 (本冊145頁)

- ◆「Nightlife in WAKAYAMA ～和歌山の夜の楽しみ方～」の拡充

(2) 快適観光空間の創造 (本冊146頁)

- ◆観光地内公衆トイレ整備補助
 - 公衆トイレの快適性向上や美化促進を図るため、市町村が行うトイレ整備(大便器の洋式化、温水洗浄便座の設置、小便器の自動洗浄化等)を支援
 - (※)観光地内公衆トイレ整備(令和2年3月末現在)
 - 【箇所数】市町村等公衆トイレ6か所を改修(令和元年度)(平成25年度～令和元年度で合計690か所を改修)

(3) 二次交通の利便性向上 (本冊146頁)

- ◆リムジンバス・アクセスバスの運行
 - 公共交通を利用して世界遺産を巡る観光客の利便性向上のため、リムジンバス(関西国際空港～高野山)、京都・高野山高速バス(京都駅～高野山)、高野山・熊野聖地巡礼バス(高野山～熊野エリア)、高野山麓世界遺産アクセスバス(高野山麓エリア)の積極的な情報発信により、利用を促進

(4) わかやまおもてなし県民運動 (本冊151頁)

- ◆「わかやまおもてなし宣言」の実施
県民一人一人が来訪者への具体的なおもてなしの内容を「わかやまおもてなし宣言」に登録し、実践

(5) 接遇の向上・人材の育成 (本冊152頁)

- ◆おもてなし力向上研修会・課題対応研修会の開催
- ◆おもてなしの宿づくりセミナーの開催

4「海外」から和歌山へ招く、「外国人観光客」をもてなす

(1) 『新たなプロモーション』で和歌山へ招く (本冊157頁)

- ◆京都・大阪、首都圏からのプラスワントリップをめざした広域周遊ルートを構築し、連携機関と共同したグローバル・メディアキャンペーンなど集中的にプロモーションを実施 =New=
- ◆近隣県と連携した「紀伊半島外国人観光客受入推進協議会」を設立し、世界遺産エリアを中心に交通アクセスの改善や多言語案内表示など県域をまたぐ統一的な受入環境を整備 =New=

(2) 『ネットメディア展開』で和歌山へ招く (本冊159頁)

- ◆多言語観光WEBサイト「Visit Wakayama」やフェイスブック、インスタグラム等SNSによる旬の観光情報を発信
- ◆CNNやBBCなど海外大手メディアを使ったグローバルキャンペーンの展開

(3) 『海外26か国・地域』から和歌山へ招く (本冊161頁)

I 東アジア

- ◆旅行スタイルの変化にあわせ、増加する個人観光客をターゲットとしたメディア対策を強化、京都・大阪からの公共交通機関やレンタカー等を活用した和歌山県への周遊を促進

II その他アジア

- ◆個人観光客への認知度向上に向けたメディア対策に加え、インセンティブツアーや教育旅行の誘致などのプロモーションを展開

III 欧米豪

- ◆世界遺産「高野山・熊野古道」をはじめとした歴史や伝統文化に加え、スポーツツーリズムをテーマとした情報発信とロングトレイルなど長期滞在を目指したプロモーションを強化

(4) 『テーマ別の取組』で和歌山へ招く (本冊194頁)

- ◆「ほんまもん体験」に代表される和歌山ならではの体験型観光の魅力をアピールし、個人旅行者の長期滞在・消費拡大を促進
- ◆サイクリングやゴルフ、大自然を活かした各種アクティビティによるスポーツツーリズムを推進
- ◆農家民泊体験と学校交流を組み合わせたインバウンド教育旅行の受入拡大
- ◆外国クルーズ客船の誘致に向けた客船運航会社等へのセールスの実施、クルーズ観光情報の発信
- ◆南紀白浜空港への国際チャーター便を利用した県内宿泊ツアー商品造成の働きかけ

(5) 『医療観光』で和歌山へ招く (本冊197頁)

- ◆医療観光推進の具体的取組推進のための医療観光協議会を開催
- ◆国内外の医療コーディネーター、旅行事業者等を対象としたファミツアーの実施

(6) 『外国人観光客』を和歌山でもてなす (本冊199頁)

- ◆県域をまたぐ統一的な交通アクセスの整備 =New=
外国人観光客が多く訪れる京都・大阪から紀伊半島へのプラスワントリップをめざした「広域周遊ルート」を構築、個人観光客がストレスなく公共交通機関を利用して移動できるよう、世界遺産エリアを中心に交通アクセスの改善や多言語案内表示の整備を実施
- ◆和歌山県版通訳ガイドの育成、就業促進のための情報発信
- ◆外国人観光客の受入環境(Wi-Fi、多言語案内表示ほか)の整備
- ◆和歌山ほんまもん体験のインバウンド対応支援 =New=
- ◆多言語コミュニケーションツール(電話通訳・簡易翻訳サービスほか)の導入推進
- ◆JNTO認定外国人観光案内所の拡充

◆消費拡大のためのキャッシュレス決済環境の整備、消費税免税店の拡大

【問い合わせ先】

観光局	観光振興課	073-441-2777	池尻、西田、北廣
	観光交流課	073-441-2789	山田、古味山